



学校だより

5月号



子ども達の成長

校長 三橋 淳子

明るい日差しの中、令和3年度も2か月目に入ります。

日々、時間を変えて校舎内を歩いておられますと、各学級で子ども達が真剣に話を聞く姿、板書された内容を確認しながらノートに書き写す姿、活動に集中して取り組む姿など、一人一人の子ども達が真剣に学習活動に取り組む姿を見ることができます。またある日には、5時間目が始まるまでには5分ほどあるという時間帯には、いずれの学級でも、大部分のお子さんが落ち着いた表情で次の授業の準備をする様子が見られました。

今年度も、挨拶について、「誰に対しても」「それぞれの場面で」ができるようにするために、日々、声掛けを重ねていますが、昨年、一昨年度に比べると、挨拶の声がはっきりとしたものになり、「自分から」挨拶のできるお子さんがとても多くなってきていると感じます。そして、交通安全に関わる指導として「横断歩道では、いったん立ち止まり、左右を確認してから手をあげて渡る」ことを重ねて指導することで、左右を確認して手をあげて渡る、信号の点滅が始まったら横断せずに待つことができるお子さんが増えました。

挨拶についても、横断歩道の渡り方についても、お子さん自身が自分の頭で考えて、行動に反映することができることが目標です。このように考えて指導を重ねる日々の中で、先日、地域の方から次のようなお話をいただきました。「狭い歩道で、前方から小学生が横に並んで進んできた。その一人とぶつかってしまったが、そのときの小学生の態度が大変悪かった。」というものです。

状況を全て把握できたわけではありませんが、道を歩くのは自分達だけではないこと、お互いに安心して歩けるようにしていくことを意識してほしいと考え、このお話を受けた当日中に、「歩道では広がって歩かないこと」、「他の歩行者の方がいるときは一列になり道を譲ること」、「迷惑をかけたりぶつかってしまったら『ごめんなさい』を言うこと」などについて各学級で指導の時間を持ちました。

子ども達のご家庭や地域で過ごす日常の中でも、様々な場面があると思います。そして、それぞれの場面をとらえ、考える時間をもつことによる学びが子ども達の成長につながります。一度話ただけでは理解して行動に移すことが難しいこともありますが、根気強く重ねて伝えることで、お子さん自身が考え、判断し、行動できるようにしていきたいものです。子ども達の成長のために、保護者の皆様、地域の皆様それぞれのお立場で、お力をいただければと思います。

新型コロナウイルス感染症の感染の拡大について心配の尽きない毎日ですが、今後も、一人一人のお子さんが安心して安全に過ごし、確かな学びを重ねることができる学校をめざし、丁寧に教育活動を進めて参ります。引き続き保護者、地域の皆様のご理解とご協力を頂ければ幸いです。今後とも、よろしくお願いたします。